

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームぼらん室根

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900140		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん室根		
所在地	〒029-1201 岩手県一関市室根町折壁字兵沢114番地1		
自己評価作成日	令和元年11月13日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して間もなく9年目を迎えます。法人理念とホーム独自の理念「一日一日を笑顔で大切に」を大切にしながら、利用者様やご家族様が住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう一人ひとりに合わせた柔軟な対応心がけています。
職員は開所当初からほぼ変わらないことでホーム内の信頼関係が構築できており、さらにサービスの質の向上にも繋がっています。
また、職員個々の適性にあった研修会への参加を促し、継続的に外部研修へ積極的に参加することにより資格取得やスキルアップを目指して努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0390900140-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、室根山の麓にあり、周辺を田畑や森林で囲まれ農家も隣り合わせる閑静な場所に立地し、主催する敬老会や避難訓練などに地域住民の参加、協力を得るなど、地域との交流を重ね今日に至っている。開所9年目を迎え、法人理念とホームの理念のもと、更なるサービスやケアの向上に向け、業務の改善や職員の資格取得等に取り組んでいる。利用者は、それぞれの経験と知識を活かし、趣味を楽しみ出来る役割を担いながら、家族的な環境の中で明るく楽しく暮らしている。事業所は、「地域のために何が出来るか」を常に意識しながら地域と向き合い、さらなる地域交流を目指している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホームぼらん室根

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とホーム独自の理念をネームプレート裏に掲示し毎朝の小ミーティングで唱和することで理念の共有、自身のケアの振り返りにつながっている。	法人理念を受け、施設介護理念を職員全員で検討して作成した。理念の実現に向け、職員全員がネームプレートの裏面に理念を印刷し、常に意識しながらサービスやケアに当たっている。毎月の職員会議等で唱和し、定期的に職員皆で振り返りをしている。	理念の各項目の抽象的な文言について、職員で話し合い、共通認識の下で、目線や方向性を合わせながら、理念の実現を図ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶を始め、地域の一斉清掃への参加、ボランティアの受け入れ等している。ご近所さんより野菜やお米などをおすそ分けしていただくことも多い。	散歩や地域清掃を通して、利用者・職員が地域の方々と交流を重ねてきたほか、中学生や専門学校生の職場体験や実習の受け入れ、地域文化祭への参画、りんごオーナーへの登録など、事業所が一体となって、開設以来今日まで、地域と密着した交流を図っている。また、日頃から散歩時には、ご近所の方々と挨拶を交わし、野菜やお米を差し入れていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成講座を受けている。職員は定期的に同連絡会へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、年6回実施している。ご家族様や支所職員、地域住民、消防や警察の方々、訪問看護師等にご助言をいただいている。	警察や消防など幅広い分野の方々と構成し、事業所の一般的な事業報告に留まらず、利用者の支援に関しても活発な議論が交わされている。委員からは、避難訓練や自由時間の過ごし方など、さまざまな意見等が出されている。毎回、利用者家族へ開催案内をするが、参加者が減少してきている現状にある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課窓口へ足を運び、各種書類の届け出を行っている。また、入退去に関する相談や災害情報の連絡をいただく等、積極的に関わっている。	運営推進会議に毎回支所担当者の出席があり、事業所でも支所を訪ね疎通は良好である。生活保護受給者も複数人おり、担当者も来所、面談している。利用者のために成年後見制度の導入や軽費老人ホームへの住み替えなどで関係者と調整連絡等を行っている。大型台風や災害発生に備え支所から事前連絡が入るなど、日頃から支所との連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、定期的に話し合い、運営推進会議でも報告している。また、内部・外部研修へ参加し意識の統一を図っている。	身体拘束防止委員会は、3ヵ月毎に開催し、外部研修を終えた職員を講師として伝達講習会やスピーチロック等の勉強会を開催している。日中は、玄関の鍵は開放している。ベッドからの転落を防止するため、利用者1人に了解を得て夜間に鈴を付けている方がいる。「言葉による拘束」は、人格の尊厳にも関わることであり、職員相互で注意し合っケアに当たっている。玄関施錠は、夜の防犯上を除き行なっていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、研修報告と合わせ内部研修を行っている。 職員一人ひとりが利用者様の立場になり、安心して生活していただけるよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての疑問や質問を市役所担当者へ問い合わせ、理解を深めている。 今後も関係者と連携していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には契約書や重要事項説明書等を用いて時間をかけ、丁寧に説明している。入居相談の際から悩みや疑問等を傾聴し不安なくご利用していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際にご本人様の様子をお伝えし、ご家族様の要望等をお聞きしている。また、ケアプランの支援内容についても丁寧に説明し意向の確認をしている。	利用者の意向等は受持ち担当者が把握し、連絡ノートを活用してスタッフ間でも生の声を共有するようにしている。家族との関係性を深めるために、毎月の「お便り」を通してより意見を得やすい関係作りに努めながら、来訪時に受け持ち担当者が面談し、日頃の様子を写真等を用い丁寧に報告し、家族の意向等を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見を聞くよう心がけている。また、代表者は毎月のミーティングや職員アンケート等で職員の要望等を聞く機会を設けている。	毎月の職員会議やカンファレンス、申し送りの機会や、「連絡ノート」を活用するなど、何時でも意見等を出し合い改善策を講ずる関係が出来ている。例えば、夜勤ができない職員や子育て中の職員のために勤務体制を調整し、キャリアアップのための資格取得を業務扱いとし、費用は法人の全額負担としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情による短時間勤務や日中だけの勤務体制等、就業環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成、キャリアアップの啓発を継続的に行い、資格取得の費用や研修代等、全額補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の外部研修会へ積極的に参加し、同業者と交流する機会を設けている。また、介護支援専門員更新研修等の専門研修ではネットワークづくりを通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お問い合わせの段階から、不安や困っていることを傾聴している。ご本人様の発言、行動や仕草、表情等から思いをくみ取り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活歴や介護で困っていること等を丁寧に伺っている。また、入居後どのように生活していただきたいか意向を聞きながら信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることやこの根本的な原因を見極め居宅支援サービス等も含めた情報等を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように食事作りや掃除等の日常生活と一緒にいき、郷土料理や風習を教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便り等で近況報告を行っている。ご本人様の希望に合わせ、自宅や美容室等への外出のご協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医への受診や馴染みの場所や関係を大切に支援している。 お墓参りや地区の敬老会、運動会等へ出かけられている。	馴染みの人は、家族等が殆どであるが、時には、友人や知人が来訪して、楽しい時間を過ごしている。また、行きつけの、或いは親族の営む美容院に通ったり、実家地区の敬老会や運動会や夏まつり、地域伝統行事(室根大祭)に出掛けている。息子と一緒に卓球場にでかけたり、友人に年賀状を出す利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、得意分野を理解し、利用者様同士が関わりを持てるようなレク活動やイベントを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先へ面会に行く等、経過の把握と共に情報提供をしながら、これまでの関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、生活記録に利用者様の話されたこと、願いや望み等を記入している。 意思表示の少ない方は生活の中での表情や行動、生活歴等から思いを把握するよう努めている。	日々の寄り添いや声かけをしながら思いや意向に耳を傾け、表情から思いを汲みとり、残存機能を他の利用者のためにも活かしていただいている。利用者の状況等の変化や意向は連絡ノートで共有している。話しの苦手な方等からは、表情や態度などから汲み取りながら支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の面談にて、自宅での生活の様子等の情報収集すると共に、利用時にはご家族様からフェイスシートを記入していただき生活歴や趣味等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、体調管理表、排泄チェック表を活用し一人ひとりの体調や心理状態を把握し申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で課題とケアのあり方について話し合い、介護計画に反映させている。 また、担当職員がモニタリングを行ったり、ご本人様やご家族様の意向を確認し作成している。	利用者や家族の思いや意向を把握し、原則6か月毎に、計画作成担当者が取りまとめた、生活状況や支援上の課題等に応じた介護計画案について職員間で検討し、家族等に説明のうえ成案としている。この間、居室担当者は、日々の記録等を基に概ね3か月毎にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録や排泄チェック表、業務日誌に記入し、職員間で情報共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診や外出等にも職員間で臨機応変に対応している。ご家族様の希望で冬場は道路状況が悪い場合ホーム対応で受診対応することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の収穫祭や文化祭、散歩や買い物等へ出かけ地域と交流している。 また、避難訓練への参加やボランティアの受け入れを行い豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続して受診している。体調不良時や介護保険更新時など必要に応じ、職員が付き添い日常生活の様子を伝えている。	入居に伴うかかりつけ医の変更は無い。定期的な通院同行は、家族を基本としながら、容態の急変等により職員が柔軟に対応している。普段の健康管理は毎週1回訪れる訪問看護ステーションの看護師と職員が行っている。医師とは、円滑円満な関係となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日々の様子や体調の変化等細かく伝え、適切な処置方法や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合には、こまめな面会と状態把握に努め、また電話等で担当看護師や相談室と情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針の説明するとともに、ご本人様やご家族様の意向を確認するようにしている。 日頃から利用者様の状況、体調の変化等を職員間で共有し、ご家族様へも報告するよう心がけている。	看取り指針を作成しているが、地域の医療資源等の実態から実際には看取りには至っていない。介護度が3以上になる場合には、特別養護老人ホームへ入所していただいている。重度化が進行した際には、かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師、家族等とともに、対応について一緒に話し合っている。職員の不安解消に向けた研修を実施したいとしている。	看取り等への利用者家族等の不安や心配解消を図るため、地域の医療連携の体制充実に向けた協議を引き続き重ねることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	利用者様の急変や事故に備え、勉強会や救命講習へ参加し実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく水害等の災害に備えた訓練を定期的に行っている。台風19号の際には福祉避難所となっている特養へ避難し連携を実現している。	消防署や近隣の住民の協力をいただき火災避難訓練を春と秋の年2回実施し、うち1回は夜間想定としている。土砂崩落の危険地帯であり、先日の大型台風の際は、事前に福祉避難所へ避難した。災害時に備え水、食料、毛布等を備蓄している。職員は、消防署員立ち合いのもとAEDの使用や消火訓練の実地訓練をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者様の人権を尊重し、丁寧な言葉使いや接し方を心がけている。また、秘密保持に努めプライバシーの確保に努めている。	人生の先輩として敬い、言葉使いには留意している。ご本人が嫌がることはしないこととし、傾聴し、得意とする料理など作り方を教えていただきたい。利用者の方の下で名前を「さん付け」としているが、逆に若い職員に対し利用者が「ちゃん付け」で呼んでおり親しみをもっていただいている。トイレ誘導はさりげなく、戸は締め外で待機、必ず声をかけてから開けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室やお風呂などの個室では利用者様が話やすい雰囲気作りに努め、思いや希望を表現できるよう声がけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調に配慮しながら希望に沿って散歩へ出かけたりする等、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室へ出かけたり、日常的にお化粧をされる等、利用者様の習慣に合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューを掲示し、話題になるよう声がけしている。また、日頃から職員と一緒に準備や片付け、食事作りをしながら好みを伺い、メニューに取り入れて提供している。	食事は法人の栄養士が作るメニューを基本にしなが、日々の利用者の意向や農家等からのお裾分け、季節の旬を加味して提供している。利用者には、材料の下ごしらえ、味付け、後片付け等を担っていただいている。買い物には週2回ほど出かける。ごはん茶碗、汁椀、お箸、湯飲みは自分のものを使っている。季節の行事(正月、豆まき、ひな祭りetc)や誕生会には希望を取り入れ、時にタコ焼き、鰻重など多彩である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分ともに毎食チェックしている。食事量が少ない方には嗜好品の提供や栄養補助食品を摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声がけや一部介助を行い清潔保持に努めている。 また、就寝時には義歯洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間やパターンを把握し、トイレで排泄できるよう声がけ、誘導している。 現在、昼夜問わずオムツを使用している方はいない。	ほとんどの利用者は、何らかの介護用品を装着しているが、排泄チェック表により適時の声がけ誘導している。夜間はポータブルトイレで排泄する方はいるが、基本として昼夜ともトイレでの排泄に努めている。職員の支援により、機能低下する方は見られない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便周期を把握している。下剤の副作用を考慮しながら、バランスの良い食事の提供、運動不足解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分、タイミングに合わせて、利用者様がゆったりとくつろいでいただけるよう支援している。 入りたがらない利用者様については、時間等の工夫や職員を変えて対応している。	毎日入浴できるが、それぞれに週2回を目安に声がけを行ない、時間帯は、希望により午前又午後としている。入浴を嫌がる方には、足浴や清拭又は時間や日を変えて対応している。1人30分程度、静かにゆっくりと入浴していただくが、リラックスするのか、職員とも話が弾み、歌あり、時に眠気を催す方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明等の配慮をしながら、利用者様それぞれに合わせ休息の声がけや居室への誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や医師、薬剤師からの注意点については受診記録へ記入している。また、薬説明書を添付し、副作用等、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や好きなことを活かし、家事等を日課に役割を持って過ごされている。誕生日の夕食や季節のイベント等、楽しみや張り合いを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見ながら散歩やドライブ、買い物、地域の行事等へ出かけている。利用者様の希望に沿って、今年は全員で気仙沼大島へ遠足に出かけ昼食外食している。	日頃は、日向ぼっこや散歩、買い物やプランターでの家庭菜園などで気分転換を図っている。バスハイクは天候や体調と相談しながら実施している。つつじ、花火、ひまわり畑、紅葉を楽しみ、近くの神社に初詣にも出かける。利用者個別の外出希望は、家族に対応していただくことを原則としているが、日用品の購入については職員が対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は基本的にホームで管理しているが、いつでも気軽に使えるよう声がけしている。一人ひとりの出納帳があり、利用者様と一緒に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や心配事等があった際など、気軽に電話できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた物をそのまま持ち込んでいただいている。利用者様手作りの作品や生活の様子を掲示している。また、季節を感じられる装飾の工夫をしている。	玄関には、多くの鉢植えが置かれソファで寛げる。全体がきれいに掃除され、明るく匂いが無い。大きな手作りカレンダーが開所時から活用され、暖かみを感じられる。天窓が設けられ、廊下には習字、ちぎり絵が飾られ、こたつを設置した和室は、横になってくつろげるスペースとなっている。大きなフロアは快適な室温と湿度が保たれている。クリスマスの飾りつけがされており、季節感に溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所を大切にしながら、利用者様同士のトラブルを回避できるよう座席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や布団、衣類等を持ち込んでいただいている。現在はテレビや位牌を持ち込まれている方がいらっしゃる。また、家族写真や作成した作品等を掲示している。	洗面台、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられおり、居室はテレビ、位牌、壁かけ時計をもちこんでいる利用者がある。部屋には、誕生会の横断幕、写真、ちぎり絵等が飾られている。利用者の中には、大きなシャコバサボテンを咲かせ、暮らしを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や浴室、トイレには表示を行っている。また、廊下には夜間足元灯を設置し安全に生活していただけるよう工夫している。		